



令和元年度 畜産クラスター 情報交換会報告書

令和元年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(全国推進事業)

令和2年3月

公益社団法人中央畜産会

はしがき

我が国の畜産は、乳用牛の飼養頭数が16年ぶりに増加に転じるとともに、肉用牛繁殖雌牛の飼養頭数が3年連続で増加するなど、生産基盤に回復の兆しが見えています。しかし、生産資材である肉用子牛や初任牛価格は高騰しており、今後の肉用牛肥育経営・酪農経営等は厳しい状況が予想されます。一方、畜産物価格は後継者不足等による生産減により、総じて強含みで推移していますが、担い手の高齢化、後継者不足により経営戸数の減少に歯止めがかからない状況であり、生産基盤の強化が喫緊の課題となっています。

土地利用条件に大きく制約を受ける等、限られた資源を有効に活用することが必要な我が国の畜産においては、個々の畜産経営体の努力だけでは解決できない課題が多くあります。そこで、農林水産省では「畜産経営を核に、行政、畜産関連組織・産業、地域住民等が結集し、地域ぐるみで畜産の収益力向上を図る体制（畜産クラスター）」の構築により、地域の畜産生産基盤の強化を推進するための諸施策を平成26年度から推進しています。本施策では、個人では対応の難しい課題であっても、関連する人々・産業が連携し合うことでそれぞれの資源・ノウハウを結集させ地域が一丸となることで、解決策への道が開けるという考え方（畜産クラスター計画）の基本方針が掲げられています。

本会では畜産クラスターの全国的な普及推進のため、平成27年度から畜産クラスター情報交換会を開催しています。今年度は、畜産クラスター事業を活用して施設整備及び機械導入等を行った畜産クラスター協議会関係者にご参集いただき、これまでの畜産クラスター計画の活動内容をご報告いただくとともに、各協議会が抱えている取組上の課題や今後の対応方法・解決策等について情報交換を行うことにより、今後の各協議会活動の参考としていただきました。

本報告書は、令和元年度畜産クラスター情報交換会の当日の内容をとりまとめたものです。各地域の畜産クラスター協議会の抱える課題解決のヒントや今後の取組活動の参考の一助となるよう、ご活用いただければ幸いに存じます。

令和2年3月
公益社団法人中央畜産会

目 次

1	畜産クラスター情報交換会の趣旨及び概要	1
2	畜産クラスター情報交換会の主な内容（議事メモ）	5
3	畜産クラスター情報交換会に参加した各協議会のプレゼン資料	22
①	尾花沢畜産クラスター協議会（山形県）	23
②	富山市畜産クラスター協議会（富山県）	26
③	武富町畜産クラスター協議会（愛知県）	33
④	竜王町畜産クラスター協議会（滋賀県）	36
⑤	広島中央養鶏クラスター協議会（広島県）	39
⑥	山口北部地域畜産クラスター協議会（山口県）	42
⑦	（公社）山口県畜産振興協会（山口県）	45
⑧	ありたどり生産協議会（佐賀県）	47
⑨	県央地域畜産クラスター協議会（長崎県）	50
⑩	日出町高付加価値卵生産推進協議会（大分県）	53

令和元年度畜産・酪農収益力整備等特別対策事業（全国推進事業）

畜産クラスター情報交換会

I 趣 旨

全国の畜産クラスターの取組みを行っている先進事例の関係者を参集し、これまでの取組みの課題やその解決策及び今後の取組み等をテーマとした情報交換会を開催する。併せて、関係資料をとりまとめの上、広くその情報を発信し、もって各協議会の円滑な運営に資する。

II 概 要

開催期日：令和元年 11 月 14 日(木)13：30

～11 月 15 日（金）12：00

開催場所：TKP 秋葉原カンファレンスセンター ホール 7A

（東京都千代田区神田松永町 4 番地 1）

13:00～ 開場

13:30～13:40 開会

第 1 部 分科会 11 月 14 日(木) 13:40～17:30

13:40～15:40 各分科会での情報交換（各協議会のプレゼン：学校形式）

- ・ 畜産クラスター協議会の目標について
- ・ 目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容について
- ・ 目標達成度（実績・成果）を把握するための仕組み・体制について
- ・ 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題について



15:40～16:00 休憩 - レイアウト替え（グループ形式） -

16:00～17:30 各分科会での意見交換

- ・現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題について

分科会のグループ割

- A 飼養規模の拡大、飼養管理の改善
- B 新規就農、担い手育成、労働負担の軽減
- C 自給飼料利用の拡大



第2部 全体討議 11月15日（金） 9:00～12:00

9:00～11:50 全体討議による情報交換

- ・各分科会の意見交換内容報告
- ・全体意見交換



12:00

閉会

令和元年度畜産クラスター情報交換会の主な内容（議事メモ）

本情報交換会は47都道府県に募集をかけ、11県14協議会等から15名の畜産クラスター協議会事務局等の出席があった。

第1部は、全体での情報交換を行った。事前レポート①と②及び畜産クラスター協議会の概念図（ポンチ絵）の資料に基づき、各畜産クラスター協議会の目標や取組内容、取組内容に関する問題点や解決策、目標達成度（実績・成果）を把握するための仕組み、現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題等を報告し、情報共有を図った。

その後、分科会形式で3グループに分けて情報交換を実施した。Aグループは飼養規模の拡大、飼養管理の改善を主な取組内容としている協議会等から5名、Bグループは新規就農、担い手育成、労働負担の軽減を主な取組内容としている協議会等から5名、Cグループは自給飼料利用の拡大を主な取組内容としている協議会等から5名であった。

第2部は、各グループの代表者に依頼し、グループでの議論の内容を簡潔にまとめて報告いただき、その後、効率的に意見交換を実施するため、各グループの報告を踏まえて、事務局が進行する形で全体討議を実施した。

I Aグループ：飼養規模の拡大、飼養管理の改善

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

司会 では、始めたいと思います。A班からお願いいたします。

〇〇 それでは、A班の発表をさせていただきます。A班は行政と畜産協会の立場から、立場は違いますが地域全体の収益を高めるためには、どのようなフォローをしているかということで話し合いを行わせていただきました。

まず、畜産クラスターの牽引する人をつくるということで、限られた大規模農家の方が畜産クラスターの事業を活用して、より規模を拡大していく。そうした結果、小規模農家と大規模農家の二極化が発生し、大規模農家の規模拡大は成功していますが、小規模農家の不満が高まっているという話がありました。

それから、新規就農者が入りにくい状況ということで、高齢化により廃業された農家の設備を引き継ぐにも、設備が家の敷地内にあることが多く、引き渡しにくい状況になっている。また、家族経営の場合も、息子が継がない。イメージとしては、しんどい、

もうからない、休みがないといったマイナスイメージが強く、継承されていかないという問題点が挙げられました。

そうしたイメージを払拭するために、新規就農者が就農しやすいような環境づくりはどういうものができるのかということで、長崎県の話がありました。ヘルパーの雇用ということで、都市の場合もそうですけれども、ヘルパーが活躍できる環境が整っていないということで、ヘルパーの組織が活躍できるような環境の確保、待遇の整備が必要になってくると話がまとまりました。

それから、耕畜連携についてですが、滋賀県の〇〇さんからのお話で、稲わらと畜産農家で出た堆肥を交換する形で耕畜連携を行っているということで話が挙がりました。私の市では耕畜連携はまだまだ進んでいない状況ですので、参考になった形です。話はだいぶばらけましたが、以上で発表を終わらせていただきます。

司会 ありがとうございます。A班の方で、今の発表のフォローや補足があれば。

〇〇 いろいろと立場の違う5人のメンバーで話をしていたので、それと同時に畜種もいろいろ違っていた部分もありました。強引に発表者を決めてしまいましたのでつらかったと思いますけれども、本当にこのクラスター協議会が中心的経営体のためのクラスター事業になっているのか。それぞれの県によって、クラスター協議会が一つや複数であったりしたときに、クラスター協議会の中だけで課題解決ができなくなっているような事例もある。そうしたときには、クラスター協議会同士の県内での連絡協議会のようなものがあって意見のすり合わせができれば、いい方向にまた動くのかなということは言わせてもらいました。

あとは、山口県からも昨日ご報告があったとおりで、飼料米の共励会などをやることでレベルアップを進めているというお話もありましたので、そういうものが参考になってくるという感じは受けました。

司会 では、今のA班の報告で、皆さんからここを確認したいとか、もう少し深掘りした話などあれば、どなたからでも。

〇〇 ヘルパーの環境をつくりたいというような話が出たと思うのですが、私はC班でヘルパーの話をあまりしなかったのですが、やはり畜産農家は皆さん休みが欲しい。欲しいからヘルパーをつくりたいと思われているけれど、なかなかどこもできなかったのです。なぜできたかといったら、まず農家は自分のことだけ考えて、自分が休みたときだけ臨時的に来てもらう人が欲しいって思っている。でも、来てもらいたいときだけ来てくださいなんて、そんな人はいないです。

それで全然できなかったのですが、熊本県や大分県、まずは熊本県が素晴らしい考えで、ヘルパーのことをきちんと考えなくてはいけない、きちんと給料を払えるようにしなくてはいけない、ヘルパーの生活を考えなくてはいけない、農家のわがままで

やっていたはいけないということで、必ず強制的に休みを取らせるように、月に2回は絶対に取らないといけない。ヘルパーさんにちゃんと給料を10何万、20万と毎月払う。農家とヘルパーの信頼関係が大事。農家があるをしる、これをしる、次終わったら、あれ欲しい、これ欲しいは駄目。仕事もちゃんと決めておく。基本的には餌やりと牛の観察。そして何かあれば、農家の人に連絡する。決めた仕事しかさせない。時間が余るときにあれもしてくれ、これもしてくれも駄目。とにかく信頼関係が大事ですと。

そして、地域の人がみんなでやろうとすると、うちはいらないという人がいるので、やりたい人からだけやろうということで、不思議なことにどこも、大分県も熊本県も長崎県もだいたい10何人かでスタートしている。それが結構うまくいったなという感じです。だから、農家の都合ばかりでヘルパーといったら、つかまらない。そういう感じでできたかなという感じです。

司会 ありがとうございます。〇〇さんから話題が提供されましたが、どうですか。ヘルパーのことで少し議論してみますか。

〇〇 酪農ヘルパーが最初ですね。

〇〇 そうですね。

〇〇 昭和50年代の半ばぐらいにモデル事業から始まったと僕も聞いています。静岡の協会なのですけど、実は静岡県内の酪農家でも指定団体に出荷される方と直接メーカーに出荷される方の絡みがあって、静岡の場合は、酪農協はじり貧だったので、指定団体の核は静岡経済連です。となると、下にぶら下がっているのがJAなので、JA単位で酪農ヘルパーの組織があります。今も10個ぐらいあるのかな。

ここ10年ぐらい前に、指定団体に入っていなかった、俗にアウトといわれていた酪農家がインサイダーのほうになったので、90数%、指定団体出荷の県なのですけど。だから、インもアウトもいるとなると、窓口をやるのは協会だというように持っていかれて、ヘルパーの事業も平成3、4年ぐらいからうちで常勤役員になっているのかな。そのあと、15年ぐらい前にヘルパーの事業を持たされて、見ていました。だから、静岡もヘルパーは酪農がスタートです。

司会 あとは、全国的に見ても肉用牛のヘルパーの組織がちょこちょこあるぐらいで。

〇〇 肉用牛のヘルパーさんは少ないです。

〇〇 互助ヘルパーみたいな感じですね。

〇〇 子牛の引出や削蹄。

〇〇 酪農がメインで、豚や鶏のヘルパーは全然、感覚的に。

〇〇 それで質問ですけど、鶏の会社はだいたい似た考え方だと思うのですが、防疫にすごく厳しくて、例えば機械の業者に来ていただくとしても、基本的には他社、同業者のところに2週間以内に行っていたら1週間空けてくださいという方針でやって

います。ヘルパーという考え方はこの度初めて知ったのですが、やはり牛を飼われている方は、結局ヘルパーがいろいろな農家に行かれるようになるんですよね。

〇〇 そうですね。

〇〇 でも、それはあまり衛生上、良くないのでは。

〇〇 牛しかできないでしょうね。豚や鶏は衛生上やはり良くないので。

〇〇 そういうことなんですね。だから魅力的な考え方だと思ったのですが、業界的に無理だろうなという気が。ウィンドレスのことや、やはり考え方は変わりますよね。

司会 できないですし、酪農の家族経営というところがメインの場所なので。

〇〇 ご家族で365日休めないような。

〇〇 採卵、ブロイラーなど完全な会社経営の、従業員がたくさんのようなところでは、あまりなじまない。防疫の面もありますけれど。

〇〇 企業ですとか、企業の努力でやる。

〇〇 15年ぐらい前までは養鶏もそういうチームがあった。仕事が集中するときに、例えば鶏をアウトするときに、いろいろな農場がそこに手伝いに行って、5人、6人出てやりましたが、鳥インフルエンザが出てからは全然それはもう駄目です。

〇〇 それはそう思います。

〇〇 あれから、がらっと変わりました。

〇〇 確かに安易に、うちの畜産協会でも、養蜂協会の事務局でもやっていますけれど、やはりお互いに巣箱を移動など、そういったときに本当に衛生的に何も消毒しないような人が助け合ったのでは、やはり病気を持ち込むではないですが、鶏の話ではないですが、やはり同じ状況はありますね。常に危機感を持って当たらないとお互いに困る話ですので。

司会 では、ひとまずヘルパーの話は先ほどの長崎の〇〇さんがまとめていただいたので離れて、耕畜連携の話で、3班とも話されていたと私は記憶しているのですが、畜産サイドとしては糞尿がはけてくれればよいということだと思うのですが、耕種部門は国からの補助が出るので、食用のものをつくるのを飼料用米をつくって、それをもらってみたい。思惑がお互い違って、お金や労働力の面で本当にうまくいっているのか。うまくいっている事例もあるのでしょうけれど、このあたりで、このようなものがあると話題を提供していただける方がいたらお願いしたいのですが。鶏も使っていますよね。

〇〇 使っています。

司会 全体的に使っていますね。

〇〇 飼料米はやはり養鶏さんが大事なお客さんですよ。

〇〇 自分のところで配合しているのですが、それを地域の配給につくってもら

うという形ではやっています。

司会 鶏だと子実の部分を使うわけでしょう。

〇〇 そうですね。

司会 酪農などはホールクロップサイレージといって、がさっとやってしまう。やり方が少し違うといえは違うのですけれども。どうですか。

〇〇 うち、クラスターの事業に最初に参加したときは年間で百何十トンかつくっていたものを、今年度は1260何トンかまでで、合計は1300トンなのですけど、使うようにするのですけれど。それが使いやすいような施設の整備などを、クラスター事業を活用させてもらって実行しました。その結果、もともと1300トン使おうと思ったら人手がこれだけいるとか、完全配合飼料を積んだトラックが来たときに手が空いている人間に何パーセント添加しろとやる。こちらの仕事の都合だけではなくて、トラックの来たのに合わせて何かを手伝わないといけないというのがあったのですけれども、まして施設を整備することで、運転手さえいれば必要な量が添加できるようになる。または、自動で添加できるような設備をやりましたというので、できるようになった。

耕畜連携の部分は、われわれとしたら飼料用米の専用種を作付けしてもらいたいのですけれども、農家はそこへはなかなか踏み切らなかった。今年からやっと踏み切ってくれたのかな。飼料用米の専用種は、同じお米でもタンパク含量が高いのです。人間用の米はタンパク含量が低くて糖分が高く、われわれの餌はタンパク含量が高ければ高いほど単価も高くなっていくのですけれど、そういう意味では飼料用米の専用種が一番魅力があります。同時に、それだけ高タンパクのものを身の中へ蓄えるということは、鶏糞も反当たりたくさん入れることができるのです。

従来はうちの直接取引の耕種農家も1反あたり鶏糞200kgとかだったのですけれども、今やっと反あたり500kgまで出てくれるようになりました。われわれは中山間地域ですけれど、山口県の瀬戸内側でやっているところで、〇〇さんという、国からも表彰されていましたけれども、収量が1反あたり1000kgを超えます。そこは鶏糞をたくさん使うのです。早くそうなってはもらいたいのですけれど、やはりどうしても地域性があるので、われわれは北部で比較的寒いところで、もともとは人間のお米はおいしいものができるところだったので、そちらでの拡大は瀬戸内側と比べたら遅い。やはり、飼料用米の専用種をつくってもらってというのが、餌としても価値は出てくるというのがあります。

司会 ありがとうございます。こちらの班で昨日、議論をやられていたのですけれど、国のこの奨励金がなくなったら、これは続くのかということに関しては何かご意見はありますか。こちらの班では難しいだろうという話で、耕畜連携と高々にテーマを挙げているけれど、それは絵に描いた餅で、畜産のほうからその代替の費用を出すのはちょっ

と厳しいかなという。では、餌問題はどうかというのがありますけれど、これに関して何か。

〇〇 長崎県は飼料用は8万円になって、やっと面積が増えた。8万円の前の、3万いくらかの安いときでも宮崎県などは結構やっていたと思います。交付金が少ないときでもやっていた県はあった。そのころはよくやっているなと思っていましたけれど。

司会 休耕田を使っていたのですかね。

〇〇 休耕田だけではなかったみたいですけど。

司会 それを狙って、企業的な展開を地域でやっているような組織が全国的に見ればあるらしいですけど、大変だろうと思う。

〇〇 飼料用米は、基本というか国から8万円が上限で出ますよね。あとは、再生協（地域農業再生協議会）というか地域の分で加算があります。それで、極端なことを言くと、地域だとプラス上乗せで3万円とか、そこが出るところがあるのです。それはもちろん収量によって変わってくる。それだったら、どちらに魅力があるかといったら、やはり飼料米をつくろうかというのが中には出てきます。それがまた今ごろ逆転してきたというので、先ほども話が出たけれど、食用米がだんだん高くなってきている。今、てんびんにかけてというところもまた出てきた。国の補助金がなくなったら一気にまた変わってくるとは思いますけれど。再生産できるほどの金で買い上げることはまず不可能だから。今の状況なら、下がることはないでしょう。

司会 ただ、ずっと続くかどうかはありますよね。また戻ることはあると思いますけれど、とりあえずA班からB班に移りたいと思います。

Ⅱ Bグループ：新規就農、担い手育成、労働負担の軽減

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

〇〇 B班は主には3つのことを話し合いました。最初は家畜排泄物の臭気対策をどうされているかという話をして、私どものチームは行政の方が3名と会社の方が2名という形だったので、自分のところの実例と、見聞きされている農家のことをいろいろ話し合ったのですが、先に結論を言うと、臭気対策というか、地元の方とどれだけお付き合いをしているかということになってしまっているのですが、立地ですよ。結局、建物があるべく住宅地に近くないところや、どういう処理方法をしているか。

あとは基本的に家畜の種類で、牛はそんなに臭いの問題はないのではないかと聞いたのですが、鶏はなかなか臭いがきついと住民の方に言われたこともあったりして、私どものグループの会社は地元の方に、風向きによっては臭いがあるのではないかとわれ

ることもあるので、コンポストにしてみたり、それにさらに脱臭装置を付けてみたりと工夫もしてきているのですが、根本的な解決がなかなかできなくて、今言った例は結局、生糞の処理の段階のところではないので、いろいろな実例を聞いてみたいということでこの話をさせてもらったのですが、皆さんの地域というか会社はどうされているのかなというのが逆に知りたいということです。

それはそういうところでだいたいの話は終わったのですが、次に人材確保についての話をしました。やはり、全国的にだと思うのですが、実習生の方を人材としては頼りにしている状況があります。中国やベトナム、ミャンマーの方です。弊社もベトナムの方に来ていただいています。なかなか頑張ってくださっている印象もありますので、来て頑張ってく勉強して帰っていただきたいという前提で、住宅や福利厚生などを含めてきちんとし、働いてもらいやすい環境をつくる方向で行くしかないのかなと思いました。

日本の方の新規でこれをしようと思えば、一般に求人票を出して募集しても、最近の傾向で、給料よりも休みがどうなっているかとかいうところを見られることが多いので、なかなか魅力を感じてもらえないところがあるようです。入ってしまえば、考え方などは個人的に、皆さんもおっしゃっていた意見もあるのですが、週末に固定で休みがあるばかりがいいことだとは思わないのですけれども、やはりシフト制で何日休みと思ったら、個人的にはそのような感じには思っています。

そもそもが定休日のない仕事というイメージがある。その先入観から入ってしまうのでそうなると思うのですけれど、私の会社も企業ですので、そこは会社としてシフトをきちんと確立させて、しているつもりです。これだけきちんと休めるということをアピールして新しい人に入ってもらいたいのもあるのですが、農業大学校やそういうところの方に来ていただくほうが即戦力にもなるし、やる気もある人が多いということで、そういうところにアピールするのが必要な感じかという話をしました。高卒の方などが入られても、養鶏を志して就職したという感じではたぶんないので、やはりピンと来ないのでしょうね。こういうことを話しました。以上です。

司会 ありがとうございます。では、B班の方から今のご報告のフォローというか補足があれば、いいですか。

では他の班の方たちから、質問や確認、アドバイスなど。

一番は家畜排泄や臭気対策を、鶏だから気にされていましたがね。畜種によって、臭気だけというわけにはいかない。

〇〇 基本的には皆さん、縦型の脱臭装置の会社だとか、いろいろ会社があるのでしようけれども、縦型の密閉装置式になると、おがくず脱臭や、水もあるのかもしれないのですけれども、それ以外もあるのかもしれないですが、脱臭装置は必ず計算して着けてあ

るのだと思うのですが、そこでもやはり臭いというか、臭ってしまうのでしょうか。

〇〇 やはり苦情というか、風向きという話で、そこでどうするかという話に常々やはり向けられているというところですよ。こればかりは、なかなか。

司会 ご報告の中にも、地域住民との信頼関係というか、どう付き合っているかが重要だということに触れられていましたよね。

〇〇 ここのお宅では、あまり付き合いというのはないですが、話によると、GP センターも3つくらいあった中で、大阪に GP センターがある。だから、そこで卵を皆それで持って行ってしまうようです。だから、ある程度、零細や家族経営だとやはり、卵を配るではないけれども、果たしてそれがいいのか、決していいことではないと思うのですが、常々付き合いをしておくという話。中小零細、家族経営あたりだとあるのかもしれないですけど、法人である程度大きな農場ですので、大企業ですので、やはりそういった部分が少ないのかなというのはあるのかなという話です。

〇〇 牛あたりはあまりないという話でもないのでしょうか、うちにコトコト落ちましたではないですけど、あるかもしれないですけど。

司会 苦情の関係は、どんな苦情が常々ある？

〇〇 風向きによって。

〇〇 風向きは、同じ人がやはり言うてくるのですか。

〇〇 そういう部分はあります。だから結局、住民との付き合いによるということなのですが、超過疎地でやっていますので、結局、町内会に寄付しますみたいな感じで落ち着くこともあるような気がします。文句を言われて、そこで落ち着くというのはどうでしょうね。普段からこちらから積極的に仲良くしていつている。

〇〇 農業祭という形で地域住民と交流する会などはされていないですか。

〇〇 していないです。だから、良くも悪くも一括でしている。隠しているわけではなく、ちゃんと HACCP の考え方も入れているのですが、防疫第一というか、割と内側、内側に向いているので、卵の社外販売すらしないです。全部そうです。そこはすごく厳格で。だから、会社の話を聞いたら、地元の方と交流を自分からしているということなので、やはりそういうのは行政に関係なく、その町を支えている会社というプライドがあるなら、するべきではないかと思います。

司会 地元の人の雇用はされているのですか。

〇〇 十分にしていると思います。

司会 だから貢献しているわけですよ。

〇〇 していると思います。だから本来、円満にやれていないとおかしい。比較的円満に行っている農場のことを振り返って自分で考えたら、すごく積雪があるところです。冬になって積雪があったら、朝早いと3時くらいから出て、町の人に来る前に除雪する。

そういうところはとても円満にやっているんで、やはりそこは結果的に地域交流になっているのだなと思って。自分のところのし尿の餌の車を来てもらいたいがための行為なんですけれど、ただ、それが結果的に地域の方の通勤路を確保しているんで、やはりそういうことですね。

〇〇 農業祭いいですね。卵祭みたいなもの。

〇〇 1年に1回ぐらい。住民の皆さんと会って、ガス抜きという感覚で、おいしいご飯を食べながら。

〇〇 1杯100円取ったっていい。

〇〇 こういうことをしているというPRをすれば、時間はかかると思うのですが、理解してもらえていく事例を知っているんで。そういうことをやっている方もいらっしゃる。

〇〇 これは別分野ですけど、尼崎に園田競馬場があるのですが、競馬場も同じです。やはりナイトーまでやるので、近所の人と結構、音などでやはり、どちらかというと敬遠されがちです。今言ったように近所の園田地区の祭をやって、入ってもらって、競馬場のコースの真ん中のところが空いていますから、そこでお祭りをやったりして、それで理解をしてもらったりしています。

ファンバスといって、駅から路線バスを出しているのですが、それには住民の人でも誰でも無料で乗れるようになっているので、そういう形で理解をもらってはいます。レコーダーがある場所なので名前は言えないが、ナイトーのときに9時に終わるのですが、そのときに1軒だけは、さすがに夜は困るので、うろちょろしてくれるなという。その家は正面の玄関の前にある。だから、ナイトーのときは申し訳ないですけど、メインレースが終わったらその正面玄関を閉めて、西側か東側の出口にバスが行くから、そこから出てください、駅まで歩かないでください、うろちょろしないでくださいという配慮はしています。

だから、どうしてもどこか1軒はそういうものが出てくるので、それはしょうがないと言ったらしょうがないけれど、今はできるだけ努力をしてもらうしかないような感じかな。でも、ほとんどの近所の人たちが、開催してくれたらいいと言っている。なぜかと言ったら、開催の日には警備員がたくさん、いろいろな交差点のところに立っているんで治安が良くなる。開催していない方が治安が悪い。尼崎の園田。そんな感じで言われていました。やはり競馬場も同じで、近所の対策は重視しています。

〇〇 よその県の養豚の方に講演に来てもらったときに、人があまりやりたがらない、地域の自治会の役員などを積極的にやっているということもありました。あと、飼料添加物をやって、臭いがだいぶ少なくなったという話を聞くときがあるのですが、実際に臭いが本当にあまりしないというところもあったのですが、添加物は人によって効

いたり効かなかったりもするけれど、なかなか効かなかったところは、糞を完全に出していない。飼料添加物で臭いを減らそうと思うのなら、昔の糞はとにかく 1 回きれいに出してから餌の添加物をしないと、残っていたら餌の添加物が効かない感じがした。

〇〇 使い方ですね。

〇〇 順調な、きれいな発酵をしていると臭いはそんなに強くないけれども、いっぺん何かで滞留して嫌気性の発酵が始まったあと、好気性の発酵をさせようとしても、発酵の状態が悪くて、臭いも全然違う。組成が違ってくる。

それから、地元とのあれでは、うちはもともと山の上に農場があつて、その中に GP センターがあつたのですけれど、クラスター事業を活用させてもらって、鶏舎の建て替えと同時に、町といっても知れたものですが、町の中へ GP センターを下ろした。そのときは、これからさせてもらいますと近所にあいさつに行ったら、GP センターの真ん前の家族のおじさんが「絶対、そんなことはせん」と言っていたのですけれど、そうは言われてもやらないと仕方ないだろうと。

その GP センターに直売所を併設したのですけれど、年に 1 回、「とりたま祭り」といってやる。地域の人に集まってもらって、安くものを売ったり、金魚すくいをやったりというものをやるのですけれど、今はその人もその祭りに来るようになったし、たまに直売所で買い物をしてくれているという感じです。たまたま、うまくいったということですが。

〇〇 皆さんの事例を聞いていたら、やはり企業側というか、こちら側から働きかけという姿勢が大事ですね。うちの場合は、言われたことに対応して、技術的なほうだけに走っていたのがあるので。

司会 この話題から少し外れて、一番聞きたいとおっしゃっていた会検の経験のある方は少しお話をしていただければ、参考になるかと思いますけれど。

〇〇 何を聞かれましたか。例えば、畜舎をつくるなら、なぜこの業者にしたのかなど。

〇〇 それは最初の段階で、農政局とのやり取りの中でいろいろな書類を出して、そこでほぼ理解をしてもらっていると思います。基本は、そのつくった設備がちゃんと稼働しているか。例えば、もともと 1300 トンの飼料用米をつくる目標で、これだけのものをやった。将来的には 1300 トンを使う。でも今は 600 トンしか使えていない。ちゃんと稼働しているのか。投資した分がちゃんと稼働しているかどうかというところ、そういうところは強かったです。

〇〇 では日報など、稼働のことを書いてあるものを。

〇〇 全部付けて、そろそろようにして。例えば 5 つのタンクがあつて、今は量が少ないから 2 つしか使っていないといったら、たぶん、この 3 つは稼働していないじゃない

かとなるけれども、うちの場合は5つとも使って、それぞれのタンクの稼働率は落ちているけれどもというようなことで、それはそれで納得してくれました。今言われたように、日報を付けているかは、ものすごく大事なことです。ありませんと言ったら、どんどん突っ込まれる。その設備を100%でなくとも使っているという記録を付けることは大事なようです。

司会 協議会の中の誰かが進行管理というか、どこまで到達しているかをきっちり捕まえていないといけない。これでこのまま行って、1年後、この数字で、このときに会検に入られたら大変みたいになる。現状を把握した上で、早く手を打とう、県に相談に行くとか、どうしましょうかというのをやらないといけない。年に1回、フォローアップ調査はされていますか。

〇〇 しています。

〇〇 それで必ず進捗状況をあぶり出さないといけないということが出てくるので、それで絶対に無理だったら、その時点でもいいので県に相談したほうがいいと思います。

〇〇 そうですね。相談します。

〇〇 あくまでクラスター計画は、県知事承認ですものね。だから、そこを有効活用するほうがいいと思います。

司会 時間なので、とりあえずB班はこれで終了し、先に進んでいきたいと思います。ありがとうございました。

Ⅲ Cグループ：自給飼料利用の拡大

主な報告・討議内容は、以下のとおり。

〇〇 C班は、皆さんが共通しているところが、まずは規模の拡大ということで、酪農、肥育牛、鶏の規模拡大で畜舎を建てられたりもしていました。鶏の場合は、規模拡大が増えたために相場が下がってしまったということもあって、何のための規模拡大だろうかという話も出ています。牛はなかなか増えないところがあって、今のところ子牛は価格が高いまま来ていますけれど、相場が下がるということもありますので、そのへんも考えて、規模拡大だけではなく生産性の向上も目標にやったほうがいいのではないかと話もありました。

それから、辞めた方の牛舎を増改築して、別の方がまた牛舎を利用するような事例もありました。労力軽減では、やはり機械を入れることで、かなり労力が軽減できたということです。

あとは規模拡大をするときにも、生産性向上も考え、増やすということはその先の売

り先がないと、消費拡大がないと、増やしてばかりではあとで大変になるので、やはり売り先のことも考えてやらないといけないし、あとは堆肥の処理も考えてやらないと規模拡大も簡単にはいかないし、そのあたりはよく考えていかなければならないのではないかとということがありました。

それから耕畜連携で、特に牛舎や畜舎を建てる時には、周辺の同意ですね。特に水や臭いの苦情が発生しやすいので、そのあたりも気をつけてやらなくてはいけないだろうということです。

あとは堆肥です。売り先の話をしましたけれど、糞の量が減る餌もあるということで、そういう技術的な対応もあるということです。

それから、牛は家族経営が多いのですけれども、鶏などはかなり企業化が進んでおりまして、今後はやはり牛のほうもそのようになってくるのではないかと。あとは、従業員さんの雇用をしなくてはいけないのですけれども、ネットやホームページで募集があるようですが、ネットで募集をすると、意識が高い、いい人が来たりする。ハローワークではなかなかいい人が見つからないというような話もありました。あとは、いろいろと話が出たのですけれども、ほかの方で何か補足があればお願いしたいと思います。

〇〇 今の話の中で、辞めた牛舎をというところがありまして、実際にレンタル事業を高知県がやられている事業です。辞めた牛舎の農家を把握していて、牛舎は放っておいたら、建物ですから、日にちがたったら使いものにならないのですけれども、辞めてすぐなら、まだ機械やいろいろなものがあります。ですからそれを把握して、県を通してレンタルという形で新規の牛飼いをやりたい人を募集する。その人がレンタルの形で何年かやって、うまくいけばそのままその牛舎を、あとで募集されて来た人が引き継ぐという形を事業でやっています。これは高知県の畜産課のホームページに載っていますので、見ていただければと思います。

実際に私たちが牛舎に行かせてもらって、若い、30代だったかの人がやっているのを見えています。やはり畜舎は初期投資が大変です。入った瞬間に何千万とか何億の借金を抱えるのは、若い人には大変なので。銀行も、この人はレンタルの形で何年か牛舎で飼っていて、うまく行っているというのがあればお金を貸しやすい。更から始めます、畜舎建てます、お金を貸してくださいと言っても、銀行は「この人大丈夫なの」ということになるわけです。だけれど、レンタルの形で支援してあげて、2年かそのぐらいやってもらえば、もう潤沢に牛を飼って回っているということになれば、銀行もそのあと、融資しましょうという話になるわけです。

それはやはりその事業がうまく進んでいっているという形なので、日頃から、辞める前にレンタル事業に登録というか、理解をしてもらう作業が必要ですが、辞めると言ったらレンタルでやりましょうかという話で、そういう事業があるので、ぜひこれは

担い手や新規就農のほうに使ったらいいかと思っています。

それから、新規の雇用の分ですけれど、「農家のおしごと」というホームページがあります。スマホで検索したら出ると思います。それだと実際に、何県の、種別は酪農、肉用牛、養鶏、養豚だとか選べます。それで行くと、先ほどの話もありました、はなから農業をしたいという人しか見ません。ハローワークだといろいろな職種の中に埋もれてしまう。ではなくて、ちゃんとホームページやスマホで見えるので、それで募集した人が継続できているという牛舎の方が実際にいらっしゃいました。これは全国見られますので、また見ていただければと思います。

司会 ありがとうございます。どなたか何か。

〇〇 6次化の話も出ましたけれど、規模拡大して、鶏のほうは結構機械化も進んでいるので、そんなに人は増やさなくてもいいとなったら、あとは6次化に取り組むとき、初めてやることだから、そこに労力がかかるとか、なかなか6次化も競争相手がたくさんいて難しいという話が出ました。

司会 どうでしょうか。C班からの報告で、ここは深掘りしてみたいという点があったら。

〇〇 クラスターの要件で、規模の拡大ですけれども、先ほど話が出ましたけれども、それは規模の拡大よりは1人当たりの労働生産性を上げる。例えば、経済産業省の補助事業に申請したことがあるのですけれども、そのときは1人当たりの労働生産性と付加価値労働生産性が指標になって、それがある基準をクリアしたらこの事業に参加できるとなっています。ただ、それを指標にしたら何が起こってくるかという、ある種の余裕が生まれれば休みも取れるようになるだろうし、新規の就農を促進できる、担い手の育成も促進できるという意味で、6ついろいろな課題が並んでいる中のいくつか、そこに着目して進めるような事業であれば解決されていくのかなという感じは持っています。

〇〇 実際に、滋賀県でバームクーヘンのお店で、近江八幡市にあるクラブハリエとって、知っている人はよくご存じだと思いますが、滋賀県内ナンバーワンの観光客数を誇る、3年連続やっています。そこは平日の夕方に行っても、毎日のようにずらっと並んでいる。路線バスも停留所ができて、駅からバスが出ているぐらいです。そうになると、どこの田舎でも頑張ればできるのではないかなという世界かなと思います。だから、まだまだ需要はあるのかなという話が、うちの班でも出た。

司会 他の班の方はどうですか。

では、3班の報告全体を通して何でも。戻りたいという話でも結構です。

〇〇 肉用牛ヘルパーの関係で、しょうがないと言ったら怒られるのですけれども、酪農ヘルパーは出荷単位くらいでもやっているのですけれども、肉用牛ヘルパーが専門で

という話になると、なかなか難しく、当然、単価が問題になります。酪農ヘルパーなどと違って、最初の基本料金ではないけれど1万5000円とか、1頭あたり500円だとか、搾乳機でいくらという話になるのですけれども、だいたいそれは7組合、7カ所ぐらいあるような話をされていたけれど、当然、肉用牛だけの皆さんで困って、ヘルパーの人が2人いるのか、臨時ヘルパーなのか常雇用なのか分からないですけれども、料金の体系もどんな感じになるのか。

〇〇 長崎県も酪農のヘルパーはもともとあったのですけれど、肉用牛がなくて、肥育も何人かいますけれど、繁殖が多いです。熊本県はほとんど肥育のヘルパーです。時給に直すと1100円か1200円ぐらいで、仕事の量は酪農ヘルパーよりも少ないです。ですから規模に応じて、規模の小さい人は1日6時間ぐらい働いてもらう、100頭以上となれば8時間とかで、時給が1000~1200円ぐらいでやっています。月に20何日間か働いてもらえますので、組合によって差はあるのですけれど、安いところは月10何万かしかならないところもあるし、熊本などはまあまあな月給をもらっているような感じでした。1日1万円ぐらいです。月20何万かあるかもしれません。ですから、肉用牛ヘルパーは仕事の量も少ないので、あまり給料も高くないです。月に20万もらえばいいほうかもしれません。

ですから、働き盛りの30代、40代の人にヘルパーをしてくださいというのは、ちょっと気の毒な感じなので、20代の方や定年した60代の方。肉用牛ヘルパーは餌やり中心なので、20代や60代の方が来てくれると、ちょうどいいのではないかという感じはします。でも、30代、40代もいるところはあるのですけれど、あまり高給取りにはなりません。

〇〇 専門的な常雇用にはなるのでしょうか、農家の人などもいらっしゃるかもしれないですが、7カ所で何人ぐらいですか。

〇〇 長崎県はほとんど、1つの組合が10人前後とか、多いところで20何人の農家さんに。ですから月に1回利用するとして、10数名でヘルパーさん1人というぐらいですかね。

〇〇 ひと月実働は25日前後ぐらい回さないと、20万、30万には。

〇〇 酪農は2~3人1セットで1農家に行きますけれど、肉用牛は牛舎に1人で行きます。1人のヘルパーに対しては10数名が精いっぱいかもしれませんね。

〇〇 条件が違うのでしょうか、稼ぐ人は30万円ぐらい。20日以上やっています。ベースアップはなかなかないのでしょうか、30万近くになっているところもあります。それから引かれるのでしょうか。

〇〇 静岡の酪農ヘルパーは日給月給みたいなもので、利用組合の規約や細則で労働条件をどう設定しているのか。月に20日以上働かせるという形の書きぶりなのか、あ

とは逆転の発想で、月に何日以上ヘルパーに休暇を取らせるという形で書くか。金額的なもので、事務局サイドからすれば 20 代の若い子がいいといいますよね。同世代の人たちより少し高めだけれど、30 代、40 代になって家族を持つと、給料がそんなに上がっていかないからつらいという声も聞きます。

〇〇 4 分の 1 の補助ですけど、傷病時互助事業というものがあって、結局、ただの休暇であれば自己負担で休ませるべきだろうけれども、傷病時互助事業については条件があって、冠婚葬祭もあるのかもしれないでしょうけれども、そこでけがをした、主人が病気をした、奥さんがしたとかということで、そこで助けに来てくれるということで酪農経営がそこで残れるわけだから、維持ができるわけだから、判断するとそこは非常に素晴らしい考え方というか、そこだけはいいことだと思うのですけれど。肉用牛なども同じで、当然、仲間内の人が餌をやるとか、ボロ出しや、くみ出しがなければ、細かい作業がなければ応援してくれて、1 週間、半月入院してきましたという話になるのでしょうかけれども、その部分がどうしてもパイが減っていますので。

〇〇 1 カ所、急に農家の方が亡くなられたときは、そこに集中してヘルパーに行ってもらって助かったということはありません。病気、けがなど、いろいろとそういうときに。

〇〇 全然ヘルパーのことは分からないのですけれども、雇用条件で月いくら、時給いくらというのはあるのでしょうか、ヘルパーにお願いしている間に、そのヘルパーの管理のせいで例えば牛が死んでしまったとか、これは保険や契約ではどうなっているのですか。

〇〇 牛の保険は、もともと農家の方はだいたい家畜共済にだいたい入っているし、ヘルパーがけがしたときの保険も、傷害保険を入れているところもあれば、労災に入れているところもある。ヘルパーが故意に悪いことをしたら別ですけど、牛がちょっとおかしくなったとか、牛舎にぶつけて壊したとかしても、それはヘルパーの責任にはしませんが決めていました。

〇〇 それは文言で契約書に入っている？

〇〇 はい。

〇〇 保険で、酪農ヘルパーだと、補助事業ではないですけど、乳を流してしまったとか、洗って流してしまったなど、泡食ってしまうような話。あとはホイールローダーを運転していて、どこかにぶつけて破損したとかは。

〇〇 利用組合が契約している。

〇〇 共済に入っていれば、400 円だったような気がするけれども、それなりの軒数がありますのでそこで積み立てをする部分と、あとは補助事業でお世話になれるのですかね。共済の事業が確かありましたよね。

〇〇 保険の関係で、請負業者約款というもので入っている保険と、財物・資産の保険と、生産物の保険という形で、保険会社との契約を利用組合がされている。そこに携わるのは酪農ヘルパーのAさん、Bさん、Cさんが絡んでいるので、この人たちのことで起こった場合はその保険で対応しますとやっています。

〇〇 それがなかったら怖くてできませんね。

〇〇 あのヘルパーはいやだという話が当然出てくる。事故があったのはあのヘルパーだったらしいという話があるかもしれない。それだとまた困った話になる。

〇〇 ただ、酪農ヘルパーの身分保障はやはり弱い部分があつて、事故ったときに労災認定してもらわなければいけないので、労災は入っている。ただ、その代わりに年金と健康保険だけは、国保と国民年金に入つてというパターンが多いと思います。

〇〇 大分県のヘルパーは、ヘルパーになつてもらふ人を地域おこし協力隊で来てもらつて、地域おこし協力隊でヘルパーをしてもらつて、協力隊が終わったら牛舎を建てて、新規参入で牛飼いを始めた人もいます。

〇〇 ヘルパーを志向する、特に若い方というのは、ゆくゆくは自分が経営者になりたいという夢があるから、耐えているという表現をしたら悪いけれど、それがなくなつてしまえばモチベーションが続かないですよ。ヘルパーでそこまでいろいろやっているけれど、話が出たような制度とかいろいろやって、それでも人が来ない。だから、もっと上げなければいけないということになってくると、肉用牛のヘルパーはもっと条件が悪い。

〇〇 あとは、雇う側は、静岡の場合、農林大学校や農業短大の子をする。というのは、学生の2年間の間にだいたいの資格を取ってきてくれる。フォークリフトから玉掛け、アーク溶接、AIから、もう即戦力です。採用した子を取った場合は、ライセンスを利用組合の経費で取りに行かせなくてはならないので、その負担も大きい。それも機構の事業で多少は面倒を見てもらえるのだけれど。

〇〇 機構は大事ですね。

〇〇 やはりヘルパーの方たちの新規就農ですよ。群馬でも、大型化ではないですけど、1軒か2軒ぐらいいはあるのでしょけれど。どなたか話をしていましたけれども、新規で500万も1000万も貯金がない方に、新規就農の支援資金ではないけれど、運転資金も含めて、どこが貸してくれるのかという話があるので、なかなか3000万、5000万、下手すれば新規で興せば1億円ぐらい、牛の導入になれば、どういう計画で立てていくのか、政策金融公庫あたりが面倒見てくれればいいのですけれど、なかなかそんなわけにはいかないですからね。

司会 大家畜ではそういう話だけれど、鶏や豚になってくると、そういう面ではなくて、今欲しいのはたぶん従業員や労働者です。企業の中でこれはという方がいれば、組

織の中に上げていくようなことをやられていますか。

〇〇 それはもちろん。

司会 場長だとか幹部にするとか。

〇〇 入社の際に高卒から入られた人と大卒から入られた人では、少しカリキュラムが。幹部候補は院卒と大卒の人が多いですけれども。3年ぐらいかけて勉強するので、それがいけなかったということで辞める人も結構本音としてあって、要するに現実とのギャップが。特に弊社は割と表面上、コマーシャルなどかっこよくやってしまっているんで、現場とちょっと違うと。なんで辞めるのと聞いたら、それが理由なのを3人、4人は聞いたので。なかなか、幹部の人の思いと現場は違う。私はずっと現場もある仕事なので、現場の人と普段一緒なので、本当に差があるのですけれど、そんな中でも意欲を持って視野を広くやってくれる人がいたら幹部になっていただきたいので、いったん本部に来てもらったり、農場長になってもらったりしています。

司会 残り時間も少なくなってきたのですけれども、今回、この情報交換会で、同じ課題に取り組んでいる知り合いができたということで、これが終わっても情報交換は個別にできるかと思いますので、特になければ締めたいと思いますけれども、よろしいですか。

畜産クラスター情報交換会に参加した各協議会のプレゼン資料

肉用牛
(肥育・繁殖)

(重点テーマ)飼養規模の拡大と飼養管理改善、飼料作物生産拡大

(その他のテーマ)地域雇用の創出による地域経済の活性化、自給飼料作物の加工技術の向上

現状・課題

○当市は県内一の飼養頭数を誇る肥育牛生産地として、「雪降り牛」和牛尾花沢「尾花沢牛」のブランドを掲げ畜産の振興を図っている。

○しかしながら、外部からの素牛導入に依存する肥育主体の産地であるため、全国的な子牛価格の高騰や配合飼料の高止まりが経営を圧迫。

目指す姿

繁殖・肥育一貫生産体制を強化し、安定的な肥育牛生産を実現

耕畜連携による飼料自給率の向上を目指し、低コスト化を実現

行動計画

- ① 中心的な経営体が繁殖部門の導入による一貫経営へ移行するため、施設整備等を行い生産基盤を拡大。
- ② JA等の指導機関が肥育素牛の安定確保を実現するため、繁殖部門に対する技術的フォローや研修会の実施。
- ③ **耕種農家による自給飼料生産・堆肥利用の拡大等、耕畜連携体制を強化。**

畜産クラスター事業を活用し、3戸が一貫経営の繁殖部門の新設・拡大と肥育経営の拡大等のための施設整備や飼料調製施設整備を実施。(補助額計:536百万円)

(JA、畜産試験場、飼料会社、共済組合、家畜診療所、行政機関)
○技術指導等のフォローアップをはじめ、販路拡大、ブランド強化を図る。



地域一貫体制の構築
○繁殖部門の新設・拡大

期待される効果 (計画ベース)

子牛自給率の向上

H28: 6% → H33: 20%

飼料作物生産量の拡大

WCS H28: 31ha → H33: 45ha

飼料用米 H28: 172ha → H33: 192ha

雇用の創出

H33まで12名を新たに雇用

取扱店の増加

H28: 35店 → H33: 40店

公共牧場利用による省力化

H28: 51頭 → H33: 100頭

収益向上効果 (計画ベース)

肥育生産費削減効果 180百万
販路拡大・ブランド強化 20百万

★年間計200百万円の収益拡大

協議会名：尾花沢市畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年10月11日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・当市は黒毛和種の肥育経営が主体であったが、全国的な素牛価格の高騰により経営が圧迫される状態となった。そのようなことから、肥育農家の繁殖部門導入または拡大により、素牛の自給率を向上させコストの削減に取組み、収益性の向上を図る。
- ・耕種農家と連携した飼料生産の拡大に取組み、飼料コストの削減に取り組む。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容を書いてください。

素牛自給率の向上が重点的な目標となっている。ハード整備は平成30年で完了し、県単事業、市補助事業による繁殖牛増頭事業により繁殖牛の導入を支援したことにより導入は順調に進み、計画頭数を達成している。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

KPIとして、素牛自給率の向上、飼料作物生産量、尾花沢牛取扱店、公共牧場利用数、新たな雇用の創出の5点の数値目標を掲げている。

素牛自給率については年間生産頭数に対する繁殖牛の頭数（年1産換算）で求めているためJAに聞き取り調査を行う。

飼料作物、取扱店、牧場利用数については事務局内で把握することが可能。

新たな雇用については各農家に聞き取りを行っている。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

飼料用米の計画は目標の達成が困難。しかし飼料作物全作物面積は増加傾向にあり着実に耕畜連携は進んでいるため、新たな指標として自給率の向上を設定しなければならない。

また、繁殖・育成の技術的なフォローを推進し、健全な一貫経営を構築していくための支援を関係機関と協力し進めていく。

氏名：

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値		自己評価	要因分析・課題
	H28年度		平成31年度	R3年度			
素牛自給率の向上	6% (年間生産頭数 4,000頭に対し 繁殖牛267頭)		20% (繁殖牛 830頭)	20% (繁殖牛 800頭)		目標は達成したが技術面に対する支援が必要。	ハード整備も完了し、繁殖牛の導入も関係機関の導入事業により順調に進んだ。今後は受胎率の向上等、技術的な面を支援していく必要がある。
WCS・飼料用米作付け 面積・生産量の拡大	203ha ・飼料用米 172ha ・WCS31ha		167ha ・飼料用米 112ha ・WCS 55ha	237ha ・飼料用米 192ha ・WCS 45ha		飼料用米の生産量が減少傾向にあり、達成が困難。	稲WCSは順調に増加しているが、飼料用米については、輸出用米が新たに産地交付金の対象となったことで生産量が減少している。畜産農家の需要を精査し、飼料用米に限定しない耕畜連携が進む計画を考える。
尾花沢牛取扱店の増加	35店		81店	40店		ブランドPRRの効果が現れ、店舗数が増加している。	尾花沢産まれ・育ちのブランド銘柄のPR、営業活動により取扱店の拡大が進んでいる。

(重点テーマ)分業体制の構築・省力化の推進

(その他のテーマ)飼養規模拡大、新規就農の確保、自給飼料利用の拡大

富山市(案)

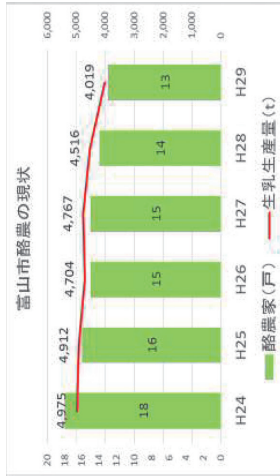
酪農

現状・課題

畜産農家の後継者不足・高齢化により離農が進んでおり、地域における乳牛の飼養頭数や生乳生産量の減少が深刻化。今後、地域の生乳生産体制をどのように維持していくかが課題となっている。

【富山市の現状】

酪農家 (H24) 18戸 → (H29) 13戸
乳牛頭数 (H24) 831頭 → (H29) 651頭
生乳量 (H24) 4,975t → (H29) 4,019t



目指す姿

- 飼料生産の分業体制を構築し、耕種農家やコントラクターが飼料品質の向上を図る。
- 酪農家が、先進的な技術を導入し搾乳体系を効率化するとともに、飼養規模の拡大と牛舎の環境改善により生乳生産量を拡大する。
- 地域のモデル農家として、周辺の酪農家や地元農業高校生徒への波及を図るなど、次世代の酪農従事者を育成する。

行動計画

モデル農家を中心に酪農家が飼料生産の分業体制を構築するとともに、畜産クラスター事業を活用し、飼養規模の拡大・飼養管理の改善のための施設整備を実施する。(飼養頭数 160頭→352頭)

【飼料生産を外部化する取組】

①コントラクターや耕種農家との連携強化による飼料生産の分業・効率化を図り、堆肥供給などの耕畜連携による地域内循環型農業を構築するとともに、牧草やWCSの栽培面積を拡大する。

【飼料の品質向上に関する実証調査】

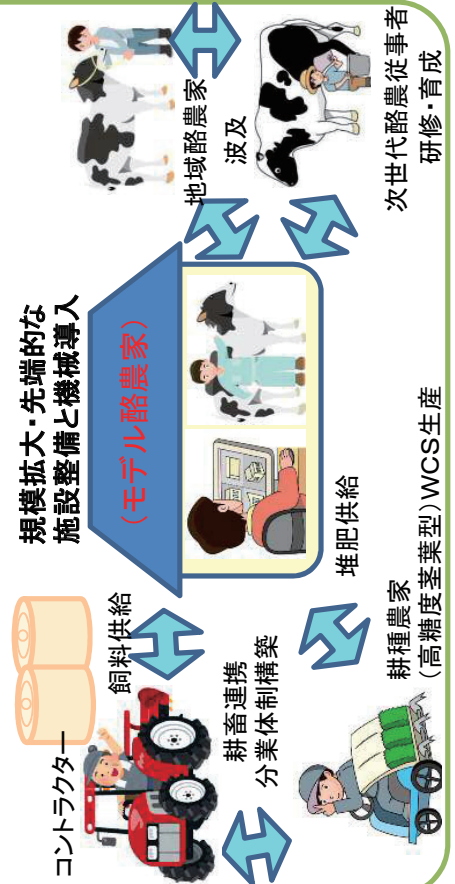
②飼料の質・収量の向上を図ることを念頭に、高糖分・茎葉型WCSの本県で初めての本格導入を実証する。搾乳牛に給餌し、乳生産性、乳質等の検定を行う。

【飼養規模の拡大・飼養管理の改善】

③飼養規模の拡大に伴い、効率的に搾乳をする機器の導入や個体管理によるカウコンフォートへの配慮など、省力化や生産性の向上を図られた先進的な施設整備を行う。

【新規就農の確保】

④地域のモデル農家として、地域酪農家へ先端技術の波及を図るため、データ提供等を積極的に行う。また、次世代の酪農後継者の育成に寄与するため、地元農業高校等から研修生受入を積極的に行う。



期待される効果 (計画ベース)

【富山市畜産クラスター協議会】

肉用牛・酪農重点化枠での取組
・飼養規模を拡大する取組

酪農家飼養頭数の増頭
H29: 160頭→H36: 352頭

生乳生産量の拡大
H29: 1,088t → H36: 2,818t

耕種農家やコントラクターと分業体制を構築する取組
・飼料生産に関する取組

稲WCS栽培面積
H29: 18.7ha→H36: 105.0ha

高糖度茎葉型WCS栽培面積
H29: 0ha→H36: 10.0ha

牧草栽培面積
H27: 33.9ha→H36: 63.1ha

収益向上効果

【富山市畜産クラスター協議会】

肉用牛・酪農重点化枠での販売額
228百万円

H29: 151 → H36: 379 (百万円)

WCS用飼料イネを活用した乳牛用粗飼料の生産拡大

現状および課題

現状

〇もっと自給飼料がほしい
 酪農家
 牧草栽培面積
 H2:1.460ha→H27:641ha
 飼料自給率28%(H28)

〇水田をフル活用したいけど
 高齢化で労力が足りない
 耕種農家

課題

水田を活用した自給飼料の生産

解決するには

手段

耕畜連携で取組みが可能

WCSの生産・利用拡大が有効

残された課題

【乳牛用飼料として】
 ・粗剛性が高く嗜好性に劣る
 ・既存の品種ではもみが消化されにくい

そこで



実証内容: 乳牛用WCS栽培の拡大による生産基盤の強化
 実施主体「富山市畜産クラスター協議会」

【栽培】

〇乳牛用粗飼料として高糖分・茎葉型稲WCSを栽培

つきすずか（富山県での本格栽培は初）

【収穫調製】

〇汎用型微細断飼料収穫機による収穫・高密度梱包



効果

デモ機による
 収穫実証

高糖分・茎葉型稲WCSの給与による生産性の向上

効果1 高栄養稲WCSを湿田でも土付なしで適期収穫
 効果2 高密度での保存による発酵品質の向上
 効果3 微細断により採食量が向上するとともに、粃破
 碎により栄養ロスを低減



項目	実施場所	検証内容
収量性	耕種農家	県内で栽培が一般的な主食用米品種との比較 (普及組織)
発酵品質	指導機関	栄養成分分析(研究所)、栽培・給与指導(普及組織)
生産性	畜産農家	牧草給与時との乳生産性、乳質等の検定成績の比較(普及組織)、乳質指導(家保)

協議会名：富山市畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年10月11日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

①新規就農の確保 飼養管理の改善	②担い手の育成	③労働負担の軽減	④飼養規模の拡大、
	⑤自給飼料利用の拡大	⑥畜産環境問題への対応	

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

●飼養規模の拡大・飼養管理の改善

○養鶏農家

- ・飼養羽数の増加

35,363羽の増加 (羽)

H27	H33	増加率
40,237	75,600	87.9%

- ・鶏卵生産量の増加

609tの増加 (t)

H27	H33	増加率
662t	1,271t	92.0%

○酪農家

- ・飼養頭数の増加

206頭の増加 (頭)

H27	H36	増加率
456	662	45.2%

- ・搾乳頭数の増加

155頭の増加 (頭)

H27	H36	増加率
284	439	54.6%

- ・生乳生産量の増加

1,763tの増加 (t)

H27	H36	増加率
2,658	4,421	66.3%

協議会名：富山市畜産クラスター協議会

○肉用牛農家

- ・飼養頭数の増加

8 頭の増加 (頭)

H27	H33	増加率
317	325	2.5%

- ・肥育牛販売頭数の増加

6 頭の増加 (頭)

H27	H33	増加率
145	151	4.1%

※乳肉複合経営酪農家分含む

●新規就農の確保

- ・正規畜産従事者の増加

6 人の増加 (人)

H27	H36	増加率
40	46	15%

●収益性向上効果

- ・養鶏農家販売額 (千円)

H27	H33	増加率
251,507	362,100	44.0%

- ・酪農家販売額 (千円)

H27	H36	増加率
368,288	520,113	41.2%

- ・肉牛農家販売額 (千円)

H27	H33	増加率
192,266	201,880	5%

- ・酪農家生産コスト (飼料費) (千円)

H30	H35	低減率
24,359	23,141	5%
322.6	307.0	

上段：飼料費、下段：飼料費÷成牛頭数

- ・養鶏農家鶏卵販売額 (千円)

H30	H35	増加率
10,656	11,189	5.0%

●自給飼料利用の拡大

- ・稲 WCS 栽培面積 (ha)

H27	H36	増加率
64.2	151.8	136.4%

(市外農家との連携含む)

協議会名：富山市畜産クラスター協議会

・牧草栽培面積 (ha)

H27	H36	増加率
78.6	115.7	47.2%

(市外農家との連携含む)

・飼料用米栽培面積 (ha)

H27	H33	増加率
6.8	7.2	5.9%

●畜産環境問題への対応

・耕畜連携面積 (ha)

H27	H36	増加率
59.6	87.8	47.3%

《肉酪枠》

・飼養頭数の増加

192 頭の増加 (頭)

H29	H36	増加率
160 (99)	352 (236)	120% (133%)

下段 () は搾乳頭数

・生乳生産量の増加

1,730t の増加 (t)

H29	H36	増加率
1,088 (9,067)	2,818 (10,064)	159.0% (11%)

下段 () は経産牛 1 頭当たりの生乳生産量(kg)

・稲 WCS 利用量 (生産面積)

86ha の増加 (ha)

H29	H36	増加率
19.0	105.0	452.6%

・うち高糖分・茎葉型稲 WCS 面積

10ha の増加 (ha)

H29	H36	増加率
0	10.0	皆増

・牧草面積

29.2ha の増加 (ha)

H29	H36	増加率
33.9	63.1	86.1%

協議会名：富山市畜産クラスター協議会

3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ・飼養規模の拡大
- ・生乳生産量の増加

4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

関係機関と連携し、実態と成果を把握している。

- ・家畜保健衛生所からの家畜頭羽数調査
- ・北陸酪連からの生乳生産量の把握
- ・全農からの肉牛生産者と畜頭数の把握
- ・富山市農業再生協議会からの転作確認野帳の調査
- ・新規就農の確保状況、高糖分・茎葉型 WCS の栽培については、協議会で確認

5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

目標	目標値	現状値	課題
養鶏農家 飼養羽数の増加	75,600	24,920	当初計画で予定していたウィンドレス鶏舎の建築については、地元の同意が得られず計画が進まない状況となっている。
酪農家 飼養頭数の増加	477	465	R1 年度から中心的経営体の施設整備事業等が始まっており、今後目標が達成される見込み。
生乳生産量の増加	2,766	2,611	R1 年度から中心的経営体の施設整備事業等が始まっており、今後目標が達成される見込み。
肉用牛農家 飼養頭数の増加	325	289	継続して支援する必要がある。
肥育牛 販売頭数の増加	147	134	中心的経営体である肉牛農家 2 件のうち、2 件で増加し、酪農家 1 件においては、減少。
稲 WCS 栽培面積 (実面積)	50.9	56.7	ロールバレー 2 機等を導入した効果が出ている。
牧草栽培面積 (実面積)	83.4	82.3	ツインロータージャイロレーキ 1 機等を導入した効果が出ている。
飼料用米栽培面積 (実面積)	6.9	12.5	中心経営体が増羽を見越して大きく増加させている。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H27 年度	H31 年 3 月	R 3 年度		
養鶏農家 飼養羽数の増加	40,237 羽	24,920 羽	75,600 羽	当初計画で予定していたウィンドレス鶏舎の建築については、地元農家の同意が得られず計画が進まない状況となっているが、1 中心経営体で増羽する計画があり、堆肥調整用機械の導入を検討している。	地域の同意がえられるよう、努力を促すとともに、堆肥調整用機械の導入により、増羽が図られれば、目標が達成される可能性はある。
酪農家 飼養頭数の増加	456 頭	465 頭	477 頭	確認のタイミングにより、飼養頭数が少ない場合があるが、R1 年度から中心的経営体の施設整備事業等が始まっており、今後目標が達成される見込み。	規模拡大予定者における牛導入の早期支援を行う。
生乳生産量の増加	2,659 t	2,611 t	2,766 t	確認のタイミングにより、飼養頭数が少ない場合があるが、R1 年度から中心的経営体の施設整備事業等が始まっており、今後目標が達成される見込み。	規模拡大予定者における牛導入の早期支援を行う。

大型GPセンターの地域利用による大規模飼養農家の経営基盤強化モデル



(愛知県／武豊町畜産クラスター協議会)

◎ **HACCP**を導入した先進的な地域最大規模養鶏場の確立

◎ GPセンターの整備による鶏卵の衛生管理の徹底及び他養鶏農家の鶏卵の集卵による新たな**地域ブランド卵**の創出

現状と課題

- ① 大都市近郊地、関連会社の立地等により従来から畜産業が盛ん。
- ② 経営環境の変化に耐え得る足腰の強い経営体の育成が急務。
- ③ 地域として安全、安心な卵の生産量の確保に努める。経営体の規模拡大を模索していく。
- ④ 地域の複数の採卵鶏農家が遠方のGPセンターを利用。
- ⑤ 地域にPRできるブランド卵がない

武豊町畜産クラスター協議会

3、4か月に一度協議会の会議を開催し、クラスター計画に沿って進捗確認、情報共有を行っている。今後も密に連携をとり、効果の発現を促進。

施設整備事業の活用

GPセンター整備 (H29整備)

GPセンター (新築1棟 2,100.87㎡)

- ・処理速度 76,000卵/時間
- ・加工施設を整備



- 地域養鶏農家で生産された鶏卵をGPセンターに搬入して、**コスト削減**
- 知多地域産を特徴とした**地域ブランド卵**を創出

成鶏舎1棟 (H29整備) 8万羽相当

ウインドレス鶏舎 (新築1棟 1,306㎡)

成鶏舎1棟 (R1整備予定) 8万羽相当

ウインドレス鶏舎 (新築1棟 1,306㎡)

農場HACCP取得



- 安全、安心な鶏卵の生産拡大
- 平成29年に取得 (知多半島初)

地域の畜産農家への導入の問い合わせに対応できるようにする。

今後の展望

取組主体が規模拡大し、**さらなる地域の生産基盤の経営コスト削減**

取組主体→規模拡大

- 飼料用米の新規利用
- 農場HACCP取得
- 地域養鶏卵の受入れ
- 機械化による省力化
- 優良鶏の導入
- 加工卵の製造・販売
- 産卵率向上
- ブランド卵の創出
- 飼養羽数増

規模拡大による地域生産
基盤の経営コスト削減

- ① 規模拡大による鶏卵生産量の増加、生産コストの減少等による**地域養鶏の収益性向上**
- ② 農場HACCP導入による地域モデルとなる**大型養鶏経営体の確立**
- ③ 鶏卵や加工品、地域ブランド卵の販売をととした**地域養鶏の発展**

協議会名： 武豊町畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年 10 月 11 日（金）までにメールもしくは F A X にてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。
 ①規模拡大による鶏卵生産量の増加、生産コストの減少等による地域養鶏の収益性向上
 ②農場 HACCP 導入による地域モデルとなる大型養鶏経営体の確立
 ③鶏卵や加工品、地域ブランド卵の販売をとおした地域養鶏の発展
- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。
 ・採卵鶏の飼養規模の拡大による経営体の経営基盤強化
 ・先駆的な飼養衛生管理に取り組むことによる経営リスクの低減
- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。
 年 4 回程度連絡会議を開催、クラスター計画を構成員ごと、年度ごとに一覧表にし、数カ月ごとに実施する連絡会議で進捗状況を確認し、一元管理している。事務局（武豊町）は、事業の展開に遺漏がないように全体の調整を担っている。
- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。
 ○平成 29 年度建設の新鶏舎は順調に稼働、今年度中に新鶏舎 1 棟を建設して飼養規模の目標を達成する。農場 HACCP は平成 29 年度に取得、現在中間審査を終えて引き続き運用中である。既存鶏舎の飼育管理技術は改善の余地あり。飼料の選定も含めて飼育管理技術の改善に努める。農場 HACCP の更新作業を経て運用実績を構築し、他の生産者への情報開示の準備を引き続き行う。地域ブランド卵の販売量を増やすことに苦慮している。また、加工品の販売先確保が遅れている。ブランド卵加工卵ともに販売強化を実施、稼働率を上げる。地域色を前面に出し、積極的な推進を実施する。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。

記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H28年度	R1 年 6月	R2年度		
鶏卵生産量増	4,647t/年	5,420t/年	7,790t/年	H29 鶏舎 1 棟整備、R1 新鶏舎整備予定で取組は順調に進んでおり今後目標達成が可能。	鶏卵価格の低下による成鶏淘汰更新事業等の生産調整、強制換羽を実施して通常の飼育期間よりも長く飼育したことによる産卵率の低下等で生産量が減少した。
GP センターの有効活用による地域養鶏農家の鶏卵輸送費減	—	5,460千円減	4,800千円減	目標どおりの成果がでている。	
加工品売上増	0	13,500千円	45,000千円	取組は順調に進んでおり今後目標達成が可能。	販売委託先の JA 全農による支援により加工品の製造を新規に開始、供給先の過多のため販売先確保が遅れている。

歴史ある「近江牛」を核とした畜産の生産基盤の強化と地域と連携した飼料の確保

竜王町畜産クラスター計画

【現状と課題】

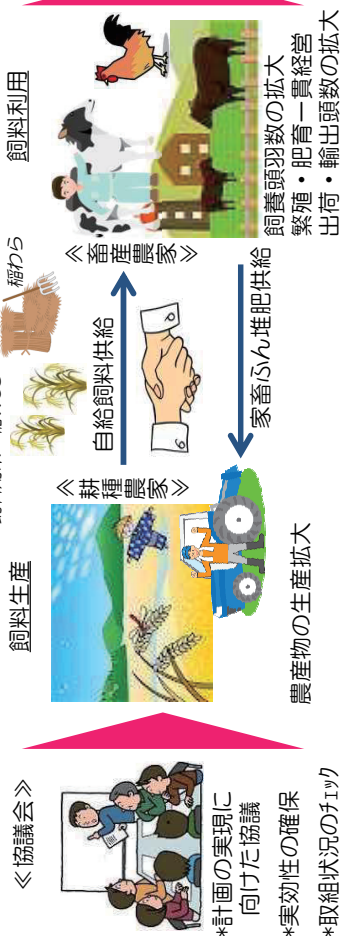
- 畜産の生産基盤の脆弱化
- 飼料価格、素牛価格の高騰
- 産地・ブランド間競争の激化
- 畜産農家と耕種農家の連携不足

【対応する政策課題（重要テーマ）】

- 自給飼料利用の拡大
＜付随テーマ＞○畜産環境問題への対応
- 飼養規模の拡大・飼養管理の改善
＜付随テーマ＞○労働負担の軽減
○6次産業化の推進
- 担い手の育成
- 輸出頭数の拡大

【主な取組内容】

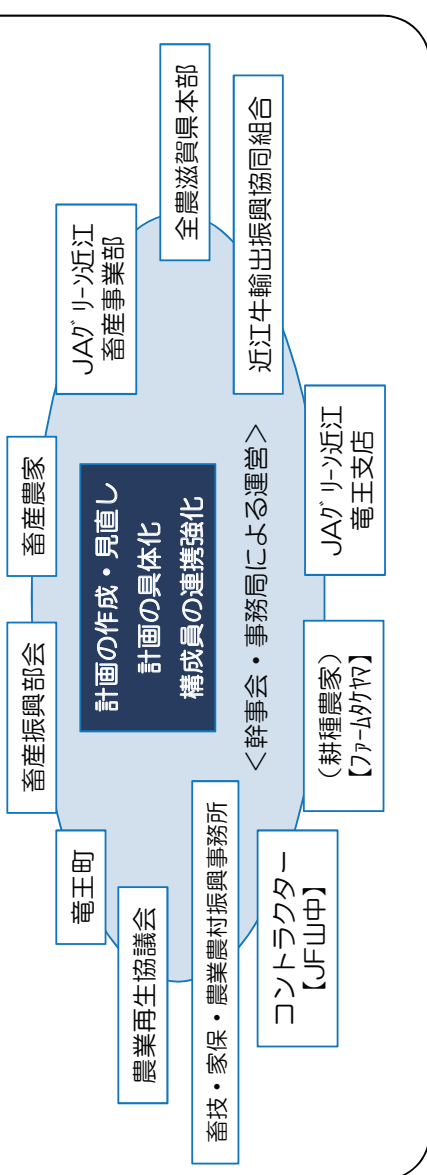
- 畜産農家と耕種農家等との連携による稲わら、飼料用米、稲WCSの生産・利用の拡大
- 自給飼料や未利用資源の利用による生産コストの削減
- 飼養頭羽数の維持、拡大（特に肥育牛・繁殖雌牛の増頭、繁殖・肥育一貫経営の実現）
- 飼養管理の改善、省力化・労働負担の軽減
- 直売所、直営販売店やレストランでの販売額の増加、6次産業化
- 「近江牛」輸出頭数の拡大



＜施設整備・機械導入＞

肉用牛肥育牛舎、飼料保管施設、堆肥舎、自給飼料関連機械等

【協議会】



農が紡ぐ地域のつながり



【拡大目標】

- 稲わら 50ha
- 飼料用米 20ha
- 肥育牛 2,877頭
- 繁殖雌牛 314頭
- 輸出頭数 167頭
- 雇用人数 8人

【削減目標】

- 配合飼料単価 1～9円/kg

協議会名：竜王町畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年 10 月 11 日（金）までにメールもしくは F A X にてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

【歴史ある近江牛を核とした畜産の生産基盤の強化と地域と連携した飼料の確保】

◆飼養頭羽数の維持・拡大

肥育牛・繁殖雌牛の増頭、肥育一貫経営の実現

◆飼養管理の改善（省力化・労働負担軽減）

◆耕畜連携（稲わら・飼料用米・WCS の生産拡大および利用拡大）

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

TPP11 協定の発効等により、畜産物価格の下落が懸念されるところ。

これに対し、地域の畜産の収益力向上を図るため、施設整備等を活用し、飼養頭羽数の維持および拡大を重点に取り組んでいる。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

施設整備事業を活用した構成員と随時連絡調整会議を行い、進捗を把握している。

また、農林水産省が実施するフォローアップ調査において、1 年間の実態等を把握している。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

クラスター計画に定める目標については、順調に推移している。

しかし、平成 30 年度においては、目標「稲わら収集面積の拡大」について、稲刈り後に長雨となったことから十分に乾燥せず、収集できないほ場が散見されたため、供給の安定化が課題である。

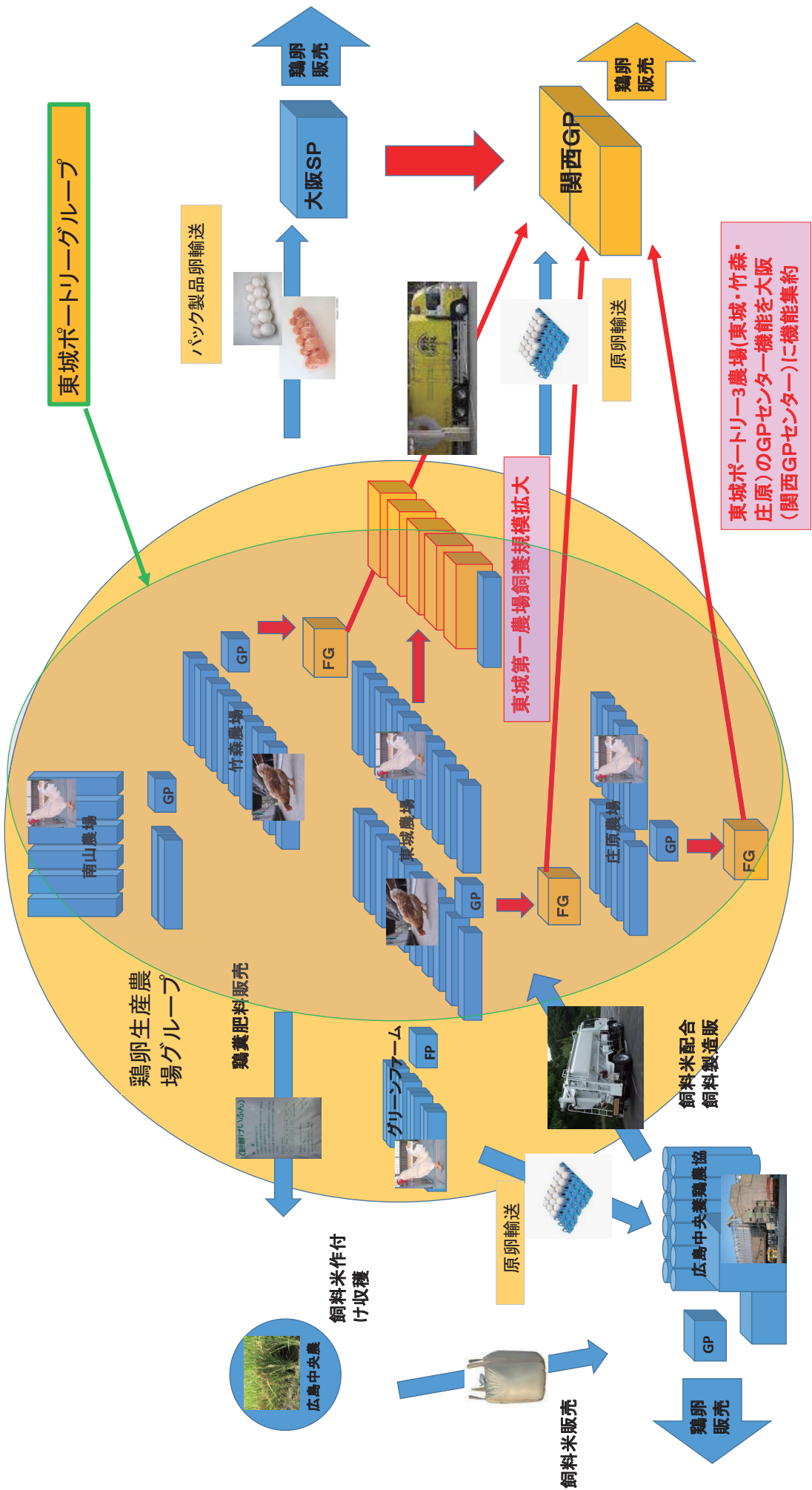
令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考ににご記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。

記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H27年度	R1年6月	R2年度		
自給飼料利用の拡大 ①配合飼料単価の削減 ②稲わら収集面積の拡大 ③飼料用米作付面積の拡大	①0円削減 ②40ha ③13ha	①8円削減 ②56.1ha ③35.7ha	①9円削減 ②90ha ③33ha	B：取組は順調に進んでおり目標年度までに達成可能	平成30年度は収穫後の長雨が原因で稲わらが収集できない場合が散見された。安定的に収集できる方策の検討が課題である。
飼養規模の拡大・飼養管理の改善 ①肥育牛頭数の拡大 ②繁殖雌牛頭数の拡大	①2,978頭 ②6頭	①3,912頭 ②90頭	①5,855頭 ②320頭	B：取組は順調に進んでおり目標年度までに達成可能	素牛価格の高騰から、一部構成員の経営判断により導入が遅れている。 繁殖雌牛についても、繁殖技術を持つ人材の育成等に時間を要している。
担い手の育成 ①新たな雇用人数の増加	①0人増	②12人増	③8人増	A：既に目標を達成	期待以上の効果が出ている。

広島中央養鶏クラスター協議会概要・現況・計画



協議会名：広島中央養鶏クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年10月11日(金)までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- | | | | |
|----------|------------|-------------|-------------|
| ①新規就農の確保 | ②担い手の育成 | ③労働負担の軽減 | ④飼養規模の拡大、飼養 |
| 管理の改善 | ⑤自給飼料利用の拡大 | ⑥畜産環境問題への対応 | |

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：③、⑥

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

鶏卵生産農場が中山間地域に点在しており、雇用確保が困難な状況にある為、製品製造を、商圏内に新設したGPセンターに移転集約し、生産性の向上とともに原卵搬送の合理化も図る。

農場の製品製造要員は飼養部門に配置転換し、飼養部門の労働負担の軽減及び飼養規模の拡大に充て、さらに鶏糞の臭気対策などの労働環境の改善も行うことにより、職員の労働条件の向上を目標としている。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ① 商圏内へのGPセンターへの集約による生産の効率化、物流の集約化による経費削減。
- ② 鶏舎及び洗卵選別部門への先進的技術設備の導入による、省力化及び労働環境の向上。
- ③ 農場GP機能の集約化に伴う、余剰人員の鶏舎関連設備への配置転換による就労機会の確保。
- ④ 鶏糞の臭気対策などでの労働環境の改善（及び、周辺地域への生活環境改善）。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ① 車輛への効率的な原卵積載の為にロボットパレタイジングシステムを活用し、日報により積載率を管理。
- ② 最適な環境制御管理システムを採用した鶏舎に建替え、日報により産卵成績や斃死率を管理。
- ③ 部門別人員の計画と実績値を定期的に分析比較。月間平均出勤数と最少出勤数を定期的に比較。
- ④ コンポストに高性能脱臭装置を導入し、定期的に臭気を計測する。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

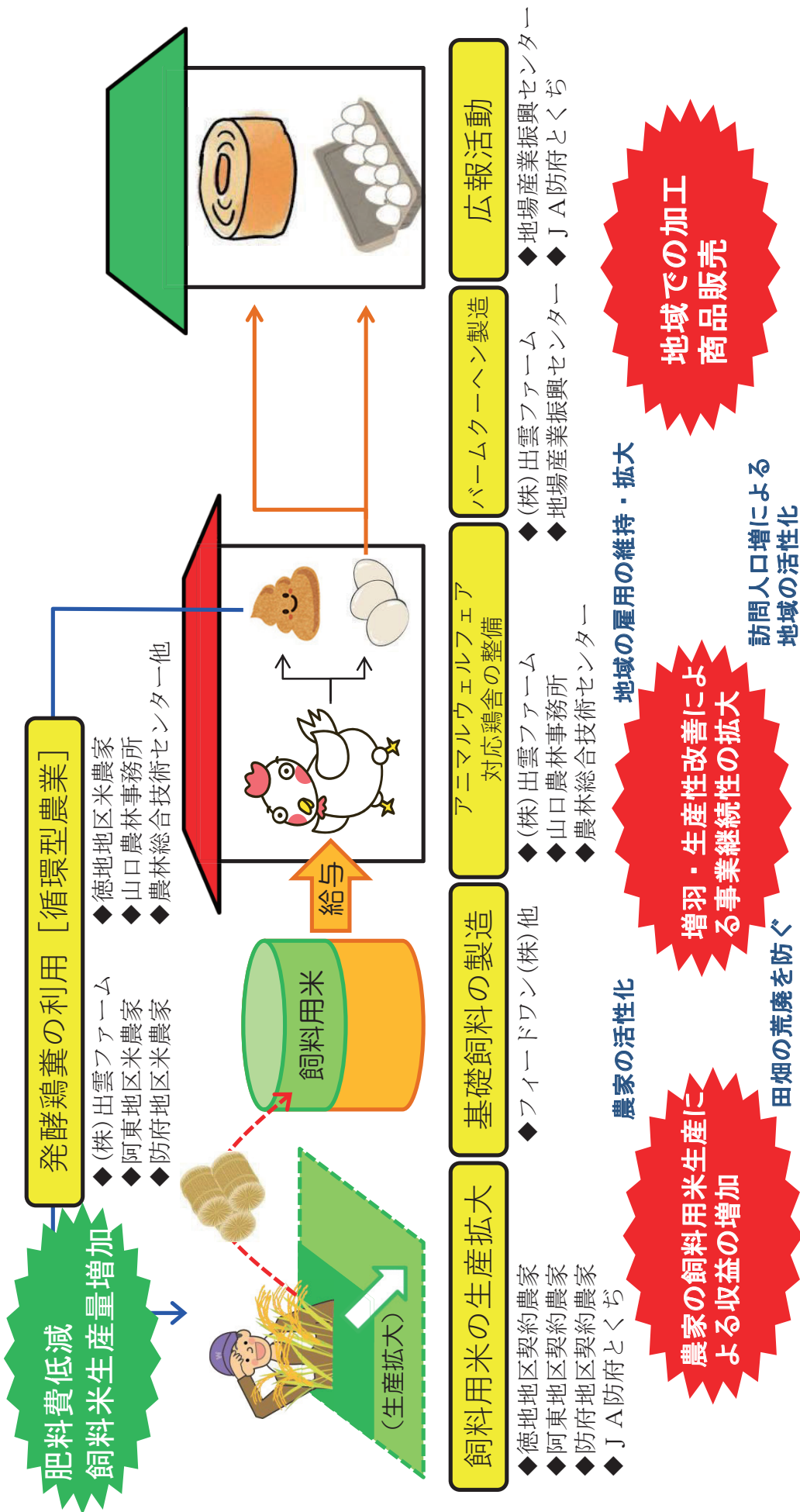
- ① 集約新設GPセンターは稼働開始済み。原卵搬送の積載率は、ほぼ100%で稼働している。
- ② 新設備は順調に稼働しているが、省力化による人員の配置転換が遅れている。
- ③ 鶏舎の大規模建替え工期延長により、GP部門から飼養部門への人員配置転換が遅れている。働き方改革の指導による休日数の増加、若年者層の採用不調による世代交代の遅れ、就業部門の異動の為に社員教育も課題である。
- ④ 脱臭装置での臭気の抑制は認められるが完璧ではない。周辺地域への総合的な環境対策を含めた対策が課題である。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値		自己評価	要因分析・課題
	H27年度	H30年度	H30年 月	R2年度	R2年度		
製品製造部門の集約化による、物流の経費削減	各農場から各販売先への製品搬送便数 18便	各農場から各販売先と新設GPへの搬送便数 9便	各農場から各販売先と新設GPへの搬送便数 11便	各農場から新設GPへの原卵搬送便数 11便	R2年度には目標達成する見通し。	物流の集約の前提である各施設の建設が遅れた為、H30年度では積載率の悪い搬送便が残っていたが、現時点では解消されている。	
各農場の製品製造要員を、飼養部門に振り向ける配置転換	各農場の製品製造要員の合計 115人	新設GP49人 農場製造集卵 67人	新設GP60人 農場集卵20人 飼養部門20人 省力化15人	新設GP60人 農場集卵20人 飼養部門20人 省力化15人	目標達成が厳しい状況。計画の見直しを行っている。	休日数の増加や有給休暇取得推進、新卒入社者と高齢再雇用者の世代交代の低迷を計画に織り込む。配置転換の為に社員教育と施設充実を図る。	
縦型密閉コンポストや高性能脱臭装置による、鶏糞の臭気低減及び、それに係る労働負担の低減	(脱臭装置設置前) 源臭13,860ppm 臭突13,860ppm アンモニア除去0%	(脱臭装置設置後) 源臭13,860ppm 臭突2,200ppm アンモニア除去84.1%	アンモニア除去50.0%	鶏糞発酵処理中での臭気に限った対策である為、周辺地域への拡散対策を含む、包括的な臭気対策とまでは言えないが、夜間の臭気対策作業はなくなり、労働負担低減は達成できた。	R1年測定で除去率60%と報告があり効果は実証できたので、更に導入を奨めると共に、畜産関係団体等と協働し、より有効な技術を模索し、周辺地域を含む包括的な臭気対策を講じたい		

【参考】山口北部地域畜産クラスターの取組イメージ



協議会名：山口北部地域畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年 10 月 11 日（金）までにメールもしくは F A X にてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号：4 _____

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・生産性の向上、規模拡大 ・飼料用米の利用拡大
- ・米たまごのブランド化およびそれを用いた加工品の製造

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取組んでいる内容を書いてください。

上記のすべてが関連しているため、3点とも重点的にとりくんでいる。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・ 自社オリジナルの生産管理システムによる予算と実績の対比
- ・ 飼料用米の入出庫管理（専用倉庫、専用タンク）
- ・ 加工品販売の詳細リスト

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ・ 現在のところほぼ順調
- ・ 将来に向けては加工場建設（3.5 億円）の資金調達
卵を用いた焼き菓子（バームクーヘン、シフォンケーキ、食パン）等は高付加価値鶏卵加工品として本事業では認めてもらうことが出来ず施設整備事業の対象とはならず、全額自己資金での調達が必要となった。
液卵、ゆで卵、温泉卵等で、同種の既存の商品に対して高い付加価値をつけることができるのか疑問である。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値		自己評価	要因分析・課題
	H26年度		H30年 9月	R2年度			
飼養羽数の増加（千羽）	338		391	389		順調	新しいクラスター計画では最終目標値は456千羽、7,800t
生産量の増加（t）	6,026		7,024	7,126		・ 生産個数は順調 ・ 生産重量としては低い	小さい卵（M、MS）の相場高のため卵重を抑制した
飼料用米使用量（t）	165		848	1,300		ほぼ順調	山口県内の飼料用米の作付が増えず調達できなかった。 令和元年度産の調達見込みは1,263tとほぼ目標達成
加工品の販売（t）	0		57,304	50,000		順調	新しいクラスター計画では約3億円の売上を目指す。 新加工場建設の資金調達が課題

協議会名：山口県畜産振興協会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年 10 月 11 日（金）までにメールもしくは F A X にてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ③

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

県の窓口団体として、クラスター事業(機械導入)を担当している。

県内 17 協議会から提出されるクラスター計画や要望書が適正か、特に導入目的が計画理念を反映しているかなど、事業が円滑に推進されるよう窓口団体として支援している。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ① 県内の肉用牛農家は、高齢化(平均年齢 65.8 歳)や新規就農者の不足等から、飼養戸数・頭数とも漸減しているため機械導入を推進して作業の効率化や労働負担の軽減を図っている。

- ② 鶏や豚においては、戸数は減少しているものの 1 戸当たりの飼養頭羽数は増加しており、6 次産業化や輸出への取り組みも活発であるため、施設整備事業の活用により一層の飼養規模拡大を図り、需要に応じた生産物の提供が行われている。

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

飼料用米の生産拡大を目指し、県内の養鶏関係 3 クラスター協議会が県と連携して合同で栽培面や流通面の協議や共励会などを実施し、これらの活動を通じて栽培農家や流通業者の状況を把握している。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ① 肉用牛では、導入した機械により軽減した労働力を活かして、さらなる増頭につながることを期待しているが増頭に結びついていない。
- ② 豚や鶏では施設整備への取り組み実績があるが、牛での取り組みはこれからである。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H28年 2月	H31年 2月	R 年 度		
豚飼養頭数の増加	21,216頭	23,235頭	-	クラスター事業を活用した施設整備に伴い、飼養頭羽数は拡大傾向。	養豚では、豚コシラの影響から侵入防止柵の設置や素豚の供給の不安など外部環境に起因する問題が生じている。また、養鶏においても鶏インフルエンザの対応など同様な状況にある。徹底した防疫や衛生指導を喚起するなど不安を一掃する対策が必要。
鶏飼養頭数	3,234,772羽	3,442,520羽	-		高額な補助金により面積拡大を続けてきたが、食用米の価格が値上がり傾向にあり食用米へのシフトが懸念。更なる拡大を図るには飼料メーカーに一定割合を国産飼料用米で混合を義務化するなどの対応が必要。
飼料用米栽培面積の拡大	供給量 (H28年産) 4,052 t (基準単収 504kgで面積 換算：804ha)	供給量 (H30年産) 4,908 t (基準単収 504kgで面積 換算：974ha)	供給要望量 (R2年産) 5,295t (基準単収 504kgで 面積換算： 1,051ha)	現状の面積が伸び悩んでいる中、共励会などで増産に対する喚起を図っているが、さらなる拡大を図るには相応な動機付けが必要。	

ありたどり生産協議会

意欲ある担い手（新規就農者）や規模拡大希望者への重点的な技術経営指導の実施、畜産環境の改善、農場HACCPへの取り組み、輸出などを積極的に行い、ありたどりのブランド力を向上させ、地域畜産業の収益性向上を図る。



ありたどり生産農家（実証）

毎月の勉強会

飼料販売店
（経営支援）

処理場

（事務局・販売促進）

飼料メーカー

（技術指導・試験研究）



取組内容と起点
となる値H27年度

○飼養規模拡大を図る。
184万羽

○輸出促進
輸出量 実績なし

現状値H31年度

○飼養規模拡大を図る。
194万羽

○輸出促進
輸出量 16t

目標値R2年度

○飼養規模拡大を図る。
288万羽

○輸出促進
輸出量 18t

協議会名： ありたどり生産協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年10月11日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善
⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・飼養規模の拡大 年間入雛羽数：184万羽（H27）→288万羽（R2）
- ・飼養管理の改善と収益力の向上

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ・ウインドレス鶏舎の建設（飼養規模の拡大）
- ・自動給餌器、給水器の積極的な導入（飼養管理改善と収益力向上）

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・毎月1回開催する生産者会議での検討
生産者や飼料メーカー等が出席し、生産成績等を発表し内容を検討する。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ・目標達成度 現在（R1）の年間入雛数 194万羽
- ・課題
生産者の高齢化や後継者不足による廃業や生産規模の縮小への対応

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

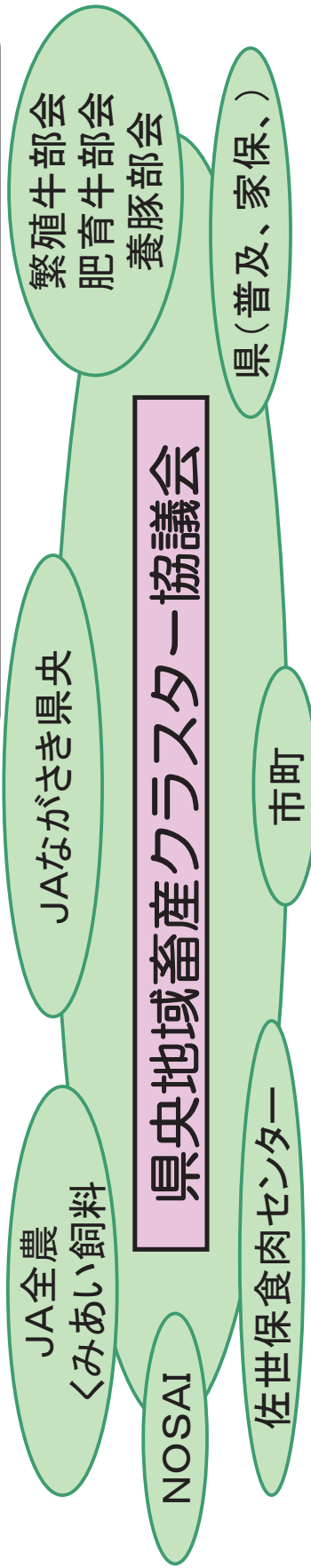
取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値		自己評価	要因分析・課題
	H27年度			R1年9月	R2年度		
飼養規模の拡大 (年間入雛羽数)	184万羽		194万羽	288万羽		目標達成が厳しい状況である。 目標の再設定について検討する必要がある。	生産者の高齢化や後継者不足により廃業や規模縮小があり、飼育羽数が減少した。 今後は新規就業対策や労働力軽減のために機械導入を進めるとともにHAACP、GAP等を導入し付加価値の高い生産に取組む。
輸出促進 (輸出数量)	—		16t	18t		順調に成果が出てきている。	輸出先が香港であるため、情勢の安定化と為替等の推移を注視しておく必要がある。

○重点テーマ

1. 飼養規模の拡大、飼養管理の改善（肉用牛）
（新規就農者と担い手の育成による肉用牛の増頭）
2. 自給飼料生産拡大と労力負担軽減（肉用牛）
（生産コストの低減とゆとりある経営）
3. 飼養規模の拡大、飼養管理の改善（養豚）
（担い手の育成と肉豚出荷頭数の増大）

○地域で取り組む対策

1. 牛舎建設や素牛導入、経営分析など規模拡大意向者や新規就農者への支援強化
前期粗飼料多給型肥育技術等によるブランド牛づくり
巡回指導や研修会、経営診断等担い手支援
2. 省力化機械導入や放牧の利用
コントラクターや定休型肉用牛ヘルパーの利用
3. 豚舎建設や種豚導入等による規模拡大支援
経営診断や研修会等による母豚1頭当たり出荷頭数増



【目標】（H30年度実績）（計画時）

○繁殖牛	1,800頭	（1,669頭）	（1,632頭）
○子牛出荷	1,200頭	（1,032頭）	（1,022頭）
○肥育牛頭数	4,600頭	（3,669頭）	（3,688頭）
○肥育牛出荷頭数	2,800頭	（2,100頭）	（2,800頭）

○飼料作付け面積 477ha（415ha）（81ha増）
○コントラクター（＋1組織）○定休ヘルパー（2組織）

○母豚1頭当たり出荷頭数 22.5頭（19.3頭）（5.5頭増）
○肉豚出荷頭数 13,500頭（8,825頭）（4,562頭増）

【年間所得向上効果】 （無対策に対して増頭分）

1. 肉用牛
子牛出荷 33,365千円
肥育牛出荷 25,711千円
2. 飼料費低減（輸入乾草減）
109,054千円
3. 養豚
肉豚出荷 6,942千円

協議会名：県央地域畜産クラスター協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年 10 月 11 日（金）までにメールもしくは F A X にてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

①新規就農の確保	②担い手の育成	③労働負担の軽減	④飼養規模の拡大、飼
養管理の改善	⑤自給飼料利用の拡大	⑥畜産環境問題への対応	

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

- ・飼養規模の拡大、飼育管理の改善（肉用牛）

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

- ・新規就農者や規模拡大意向者に対して、重点的に支援
- ・牛舎建設、素牛導入などに補助事業や制度資金活用
- ・研修会や経営診断等で担い手の育成
- ・飼養管理巡回指導等による繁殖成績と子牛育成向上

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

- ・繁殖牛頭数は 2 月 1 日調べなど。子牛出荷頭数は市場出荷頭数
- ・分娩間隔は、登録協会や子牛登記数等

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

- ・低コスト化（低コスト牛舎建設、補助事業、制度資金活用）
- ・飼養管理の徹底による生産性向上（繁殖成績および子牛育成）
- ・担い手の育成（研修会など）

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値		現状値	目標値		自己評価	要因分析・課題
	H26年度	H31年 3月		R	2年度		
子牛販売頭数の拡大 (繁殖牛)	1,022頭 (1,632頭)	1,032頭 (1,669頭)		1,200頭 (1,800頭)		計画時よりやや増頭。	高齢化で廃業があるものの、クラスター事業で牛舎建設や家畜導入事業を実施したため微増。さらに廃業は増える予想だが、規模拡大意向者、新規就農者も現れており、支援を強化する。
定休型肉用牛ヘルパ ーの設立	0組織	2組織		1組織		取組はほぼ順調に進んでいる。目標の1組織は管内全域で作成していたが、実際は小さな範囲で組織化されたため、全域ではまだ設立できていない。今年度3組織になる予定。	ヘルパーは農家に喜ばれており、全域に設立できると思われるが、ヘルパー要員の確保と仕事量確保による所得向上が課題。
肉豚出荷頭数の拡大	9,414頭	8,825頭		13,500頭		29年度は、10,000頭出荷が達成できたが、30年度に減少した。	後継者不足で、縮小、廃業者が出ている。規模拡大は大きくは望めないのが、母豚1頭あたり出荷頭数の増で、生産性向上を図る。

日出町高付加価値卵生産推進協議会

<目的>

「① 耕種農家との連携による飼料用米利用の取組」、「② 生産性向上の取組」、「③ アニマルウェルフェア（動物福祉）と食の安全安心に配慮した飼養管理体系の取組」、「④ 食品加工の取組」を強化することで、高付加価値卵の生産拡大と6次産業化を推進し、畜産経営体の収益力向上を目指す。

1 取組内容

① 耕種農家との連携による飼料用米利用の取組

- ・地元で生産された飼料用米の利用を拡大し生産物の安全安心をPR
- ・堆肥還元による地域循環型農業の確立



② 生産性向上の取組

- ・選卵装置導入により作業の効率化（選卵装置の機能向上）

【選卵作業の処理量（千個/時間）】

H26実績	H27実績	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標
16	16	16	20	25	30



鶏の行動特性（羽ばたき、砂浴び、爪研ぎ等）に配慮したケージ

③ アニマルウェルフェア（動物福祉）と食の安全安心に配慮した飼養管理体系の取組

- ・衛生水準の向上や鶏の行動特性に配慮した飼養管理体系確立に取り組むことで、生産物の安全安心をPR

【鶏舎の全ウインドレス化】

（H26）ウインドレス8棟→（H33）ウインドレス9棟
開放1棟

【エンリッチドケージ導入】

（H26）4棟→（H33）7棟

【飼養羽数（千羽）】

H26実績	H27実績	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標	H33目標
129	130	125	137	144	151	151

④ 食品加工の取組

- ・加工施設の拡張及び液卵殺菌機等の整備により、液卵製造量の拡大を図り、卵加工品の製造販売を強化



【液卵製造量（トン）】

H26実績	H27実績	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標	H32目標	H33目標
50	316	350	411	432	470	487	504

※リース事業（H26補正）により導入済み

2 実施体制

耕種農家

（飼料用米生産農家）



飼料用米供給

堆肥還元

現在：59戸、集落営農16法人

約238ha（H28）

日出町をはじめ周辺市町より

日出町高付加価値卵生産推進協議会（クラスター協議会）



採卵鶏農家

役割：①～④の取り組みを実践（中心的な経営体：（有）鈴木養鶏場）

（株）ゼンケイ

役割：飼料用米利用拡大による飼料設計生産管理技術のアドバイス

日出町農業再生協議会

役割：飼料用米の生産及び集積の推進

東部振興局

役割：生産性向上・食品加工の取組支援

日出町

役割：事務局、関係機関との連絡調整

※ハード事業（H26及びH28補正）により、ウインドレス及びエンリッチドケージ2棟整備済み

3 目標（効果）

- ・アニマルウェルフェア卵生産を拡大し、高付加価値を付けた生卵及び加工品の販売増加とともに、直販比率向上により、収益性の向上を図る。

【採卵鶏100羽あたりの販売高（千円）】

H26実績	H27実績	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標	H32目標	H33目標
570	655	610	623	636	638	647	651

【問屋を経由しない直接販売割合（%）】

H26実績	H27実績	H28実績	H29目標	H30目標	H31目標	H32目標	H33目標
63%	75%	81%	85%	88%	90%	92%	93%

※ハード事業（H26補正）により整備済み

協議会名：日出町高度付加価値卵推進協議会

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和元年10月11日（金）までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、当日の資料として印刷配布しますので、なるべく具体的に列挙してください。

=====以下、事前課題レポート=====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減 ④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 番号： ④

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

1. 耕種農家との連携による飼料用米利用の取組
2. 生産性向上の取組
3. アニマルウェルフェア（動物福祉）と食の安全安心に配慮した飼養管理体系の取組
4. 「食品加工の取組」を強化することで、高付加価値卵の生産拡大と6次産業化を推進し、畜産経営体の収益力向上を図る。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

飼料枚農家の拡大
アニマルウェルフェアに適合する鶏舎の導入

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

日出町高度付加価値卵生産推進協議会（構成員：日出町・大分県・生産者）による事業実施。

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

飼料米農家の減少傾向。

令和元年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考に記入の上、令和元年10月11日（金）までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。当日の資料として印刷配布し情報共有します。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H 29年度	H31年 4月	R 1年度		
耕種農家との連携による飼料用米利用の取組	1,700 t	1,685 t	2,800 t	耕種農家との連携による飼料用米利用の取組	既取組農家は飼料用米生産量を増やしているが、新規取組農家が少ない。 労働力不足等により、廃業する耕種農家もあった。
生産性向上の取組	20,000 個/時間	23,000 個/時間	30,000 個/時間	取組は順調に進んでおり今後目標達成可能	処理量は向上している。
「食品加工の取組」を強化することで、高付加価値卵の生産拡大と6次産業化を推進し、畜産経営体の収益力向上を図る。	411 t	240 t	504 t	取組が順調ではないが今後の改善により目標達成可能	高付加価値卵の生産・販売を優先させるため、加工用分が減少した。

令和年 3 月 23 日 発行

企画・編集 公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2
第 2 ディーアイシービル 9 階

経営支援部（支援・調査）

TEL：03-6206-0843（直通）

FAX：03-5289-0890

E-mail:cc@sec.lin.gr.jp

